

INTERVIEW

02

## 安心して子どもを遊ばせられる街。 時間ができて、こころに余裕ができました。

補助制度や子育て支援が充実していて助かっています。

「寒河江に住む両親のサポートをする、というのが移住の一番の目的でした。長男ということもあって、実家の農業をゆくゆくは継いでいくつもりです」と語る渉さん。移住前は現在の勤務先と同じグループの企業に勤め、新潟出身のむつ美さんと、3人のお子さんと一緒に横浜で暮らしていました。実家の建て直しに合わせて、一家全員で移住したのは2020年のこと。移住にあたっては、さまざまな制度をフル活用されたそうです。

「県外から移住の場合、新築で最高200万円。それに子育て世帯対象の補助金もありました。引っ越してきた当初は賃貸の仮住まいだったんですが、市と県の家賃補助も両方利用できたので、手厚くサポートしていただいていたね」(渉さん)

とりわけ驚いたと語るのが奨学金返還支援制度と米・味噌・醤油1年分プレゼント。Uターン夫婦に最大約125万円支給される奨学金返還支援は、ほかの自治体でもあまり類を見ません。「市の移住窓口にお問い合わせして、そこでいろんな支援制度があることを教えていただきました。経済的にも助かっており、とてもありがたいですね」とお二人。

また寒河江市は子育て支援も積極的。安心して結婚・出産・子育てができる環境づくりに力を入れています。「病児保育と病後児保育(風邪などが治ってきてもまだ学校や幼稚園には預けられない程度の子どもの保育)はすごく助かっていますね。ネットで予約できて利用料もお手頃なのでよく願っています」と、共働きの夫婦にありがたいサポートが魅力だと言います。

### 大泉 渉さん 一家 ▶ From Yokohama (Uターン)

社員の渉さん、パート従業員のむつ美さん、龍弥(りゅうや)くん、橙香(とうか)ちゃん、葵香(あおか)ちゃんの5人家族。以前は神奈川県川崎や横浜で暮らし、2020年に渉さんの出身地である寒河江に一家全員で移住。渉さんの実家で農業を営んでおり、跡を継ぐため会社員のかたわら現在農業を勉強中。



天気の良い昼下がりに、「最上川ふるさと総合公園」で休日を楽しむ大泉さん一家。以前よりも余裕ができて家族の時間は充実したものに。今後は「家族キャンプや河川敷BBQにもチャレンジしてみたい」と渉さん。



### 都会暮らしではできなかったBBQ。家庭菜園もはじめました。

都会で暮らしていた時は、夜勤がメインで休む暇がほとんどなかったという渉さん。「通勤時間も電車で片道1時間だったのが、いまは車で10分くらい。あとは親がいるので“何かあったら頼れる”というのが大きいですね。時間的にも、体力的にも、精神的にもだいぶ余裕ができました」と語ります。一方で、新潟出身のむつ美さんにとっては新しい場所での再スタートは不安しかなかったそう。「方言も違いすぎて話がわからないこともあり。山形と新潟は近いですが、コロナもあってそう頻繁には帰れませんでしたし…。それでもいまは幼稚園のママ友とか、仕事先の同僚と楽しくやっていますね。幼稚園のお便りでも『〇〇ちゃんが新しく入りました』などのお知らせがよく来るので、

子育て世代の移住者が増えているのを実感します」(むつ美さん)

寒河江暮らしで楽しんでいることを伺うと、「横浜にいた時はできなかったBBQ!いまは一戸建てで庭も広いので。子どもの自転車遊びも、ボール遊びも、横浜だと家の目の前の道路でしかできなくて車も通るし、ぶつけないかヒヤヒヤしながら遊んでいました。いまは安心して遊ばせられますね」と笑顔のお二人。お子さんたちも幼稚園の先生に「昔から住んでいたみたいだね」と言われるほどこの街に馴染んでいるのだとか。元気いっぱい駆け回る子どもたちの笑い声が、何よりの楽しみなのかもしれません。